ぴっぴだより　No.12　2018.2.28

2月2日朝の集まりで節分の豆まきの話をしました。ぴっぴでは毎年自分の心の中にいる(鬼)に向かって豆まきをします。そこでスタッフ全員が前に出て　ひとりひとり"心の中の鬼"を発表(?)してみました。「私の心の中の鬼は"忘れん坊鬼"です」とか「私の中には"食いしん坊鬼"がいます」とか「朝起きれない鬼」「あわてん坊鬼」とか。前に出ている　そんな大人の姿を見てどんぐりさんからおおきいひとまで　何と集中しているのでしょう。そして「えー!?」と笑っているひともいれば「ぼくも、「私も」と手を挙げている人もいるし、大人の告白に妙に納得している人もいます。

そして子どもたちにも前に出て話すことを提案するとたくさんの人が"自分の心の中の鬼"を告白しました。なかには「わたしの心の中には"片付けない鬼"がいます」という人がいました。(片付けの鈴が鳴ると隠れていることがある!)「確かに!!」と妙に納得してしまったのでした。

ここで感じたのは(何だろう?この肩の力が抜けている子どもたちの楽しそうな雰囲気は。嬉しそうに聞いているのはなんでかしら?)ということを考えたのでした。この時、子どもたちはそれをからかうのでもなく、冷やかすのでもなく、「誰だって失敗もするし苦手なことはある」と感じていたのではないでしょうか。　子どもたちはそんな大人も子どもも含めてひとりひとりの課題的なところもその人の一部として許し、認めているように思います。　大人の役割として子どもの育ちを保障することは大切です。でもそれと同時に大人も"子どもたちの仲間"、"共に歩む人"ということも大切にしていきたいなと思うのです。　この許し認めているという姿は子ども同士の関わりの中にも見られます。　例えば新しい事にチャレンジする時、一歩踏み出すのが苦手で立ち止まっている友だちがいたらその子が自分からチャレンジするタイミングを子どもたちは待っています。また遊びの中で自分の思い通りにならなくてその場を離れてしまってもその子が戻ってきた時、子どもたちは自然に受けとめています。

"この子はこんなことが苦手だな…。""この子はこういう時、立ち止まって考えているな"と言葉にはしませんが心で感じているように思うのです。友だちを許したり、認めたり、待つことが出来たり。こんな風に人に対してやわらかく柔軟でいられることはこの先人との関わりで大きな力になるのではないでしょうか。

この一年子どもたちは毎日毎日思いきり人と関わり友だちを知り大人を知り自分を知り認め合うということや受けとめるということをたくさん経験してきました。ひとりひとり着実に一歩一歩前に進んでいます。

：美穂

おおきいくみだより

2学期より、おおくりさんから「松ぼっくりさん、くりさんとぽろぴっぴ(小学生が活動している鳥井原の森)であそびたい」という案が出ていました。その後、先日ぽろぴっぴ体験会に参加した子たちからこんな声が上がりました。

礼くん「ぽろぴっぴってさー、すっごい広いから松ぼっくりさん迷子になっちゃうかも」「たしかに…」と他の人も納得している感じ。すると空太くん「じゃあさ、松ぼっくりさんの体を縄で結んで僕たちが引っぱっておけば迷子にならないよ」立くん「柵を作ればいいんじゃない?」大樹くん「あ〜、りんごちゃん(羊)みたいにね!」礼くん「縄で囲って遠くに行かないようにすればいいね」と。おおくりさんの想像は大人の想像を遥かに超えたものですね。その問題はひとまず置いておいて、ぽろぴっぴで何をして遊びたいかを考えました。

大樹くん「お弁当ごっこやりたい」空太くん「かくれんぼ」咲美ちゃん「鬼ごっこ」楓希ちゃん「鬼ごっこもいいけどさ、松ぼっくりさん追いかけられるのは怖いんじゃない?」果乃ちゃん「追いかける方が子どもで、逃げる方をスタッフにするのはどう?」大樹くん「僕は逃げる方もやりたいな、挑戦してみない?」果乃ちゃん「やってみる」と頷いていました。こんな風に思った事を素直に表現し合えるおおくりさんの輪…良い雰囲気だなと見ていて感じました。

そして、当日の朝、ぽろぴっぴの森にやってきた松ぼっくりさん、くりさんは早速山に登ったり、崖を滑り降りたり、駆け回ったりと動き出していました。みんなが揃ったところで「松ぼっくりさんが迷子になったらどうしよう…」という不安を解消すべく、おおくりさんが森を案内することに。崖を降りて、藪を掻き分け、川を渡って戻ってくる1時間弱の散策。その後、みんなで縄引きと、お弁当ごっこで遊び、お昼ごはん、自由遊びと過ごしました。

自由遊びの時間ではミステリーバス探険に行く子、ネットで遊ぶ子、泥ご飯を作っている子とそれぞれが思い思いに過ごしていました。いつもと違う場所に出会い、ここにはどんなおもしろい事があるかな、何をして遊ぼうかな、と想像し、遊んでいたみんな、わくわくしながら過ごしている様子がありました。

次の日、おおくりさんの集いで、私「ぽろぴっぴの森で遊ぶこと、みんな喜んでいたね」と話すと、立くん「俺たちが考えたんだよね!!」楓希ちゃん「もっとみんなの笑顔が見たいな」といい表情でした。卒園までの残りの日々、「またみんなで楽しいことをしていっぱい遊びたい!」と思いをらしているおおくりさんです(愛)